

移ろいゆくまちの風景を記録に残します

写真に残るむかしの風景は、貴重な記録です。

道路等が整備され、住みよいまちに進化していく一方、ほんの少し前まで当たり前だった風景や生活の面影が、わたしたちの記憶から遠ざかっていきます。移ろいゆくまちの風景を、それぞれの時代を切り取った「写真」で振り返り、記録に残していくことも、市史編さんの目的の一つとして取り組んでいます。

まちの風景 丸山公園から御船山を望む（武雄町）

御船山をバックにした武雄町の中心部の2枚の写真からまちの様子を回想



【昭和40年頃撮影】

山辺に密集して建ち並ぶ家々と、分けられたように大きく一面に広がる水田地帯が隣り合っています。

水田が一面に広がる一帯は、新しい商業地域・住宅地となり、風景は大きく変わりました。



【現在】

高架上の西九州新幹線、市役所新庁舎をはじめとする高い建物、すき間なく広がる市街地が、まちの風景として定着しています。

さらに詳しく見てみると



「田植え風景、チャーバより」
(提供：武雄町出身 武雄 淳さん)

同時期に旧武雄市役所付近から御船山を望む田植え風景を撮影。このあたりの鉄道佐世保線南側の広い水田地帯を「チャーバ」と呼んでいたそうです。



「旧武雄市役所庁舎上空より」

昭和41年庁舎完成時撮影。東側一帯に水田が広がっている様子がわかります。

市史編さんにご協力ください

ご自宅にある古いアルバム、古い書籍などが、貴重な歴史的資料になる可能性があります。皆さまからの情報提供をお待ちしています。

お問合せ

文化課 市史編さん室 電話0954-23-9181 メール：bunka@city.takeo.lg.jp